

オーストリア連立解消がEUにとって持つ意味

～クルツ首相がマクロン大統領との主導権争いに名乗り～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

◇ オーストリアの副首相で、連立政権に加わる自由党党首のスキャンダルが発覚。クルツ首相は同党との連立を解消し、秋の総選挙を決断した。欧州議会選挙直前のスキャンダル発覚は、自由党のみならず、同党と連携する他国の右派ポピュリスト政党にとっても逆風となる。オーストリアのクルツ首相はフランスのマクロン大統領とともにEUの次代を担う若手リーダーの筆頭格だ。そのクルツ氏がEU改革を進めるうえで弱点とみられていたのが、EUに懐疑的な政党との連立政権だった。クルツ氏は今回の連立解消により、欧州議会選後のEU改革でのマクロン氏との主導権争いに挑むことになる。

オーストリアのクルツ首相は18日、同氏が率いる中道右派の保守政党・オーストリア国民党（OVP）と、EUに懐疑的な右派ポピュリスト政党・オーストリア自由党（FPÖ）との連立を解消した。連立政権で副首相を務めてきた自由党のシュトラッヘ党首が、ロシアの新興財閥関係者とされる人物と、オーストリアの大手新聞社への影響力確保と引き換えに、公共工事受注で便宜を図る密談を行っている約2年前のビデオ映像がドイツ・メディアに先週リークされた。同氏は酒を飲んだ発言と弁明したうえで、ビデオ撮影が政治的な策略であると批判したが、同日、副首相と党首を揃って辞任した。自由党は反移民や反イスラムを掲げて欧州各国で連携する右派ポピュリストの一角で、2017年の総選挙後に国民党と連立を組んだ。同党はロシアの政権与党・統一ロシアとも協力合意を交わしており、EU懐疑主義政党の連立政権入りを不安視する声が多かった。政権入り後も同党関係者から排外主義的な発言が繰り返されてきたこともあり、このまま自由党との連立を維持すればクルツ首相への批判も高まりかねない状況にあった。連立崩壊を受け、国民議会（下院）の解散権を持つファン・デア・ベレン大統領は19日、9月初旬に総選挙を行う可能性を示唆した。

同国では25日に欧州議会選挙を控え、今回の自由党のスキャンダルが選挙結果にも微妙に影響しそうだ。スキャンダル発覚以前の世論調査で、自由党は国民党と最大野党の中道左派・オーストリア社会民主党（SPÖ）を僅差で追っており、同国選出議員の定数18のうち5議席を獲得すると予想されてきた。スキャンダル発覚後の世論調査は発表されていないが、自由党の票が伸び悩む可能性が出てきた。今回のスキャンダルが他国の選挙結果に影響を及ぼすことも考えられる。シュトラッヘ氏が率いてきた自由党はこれまで、イタリアのサルビーニ副首相が率いる同盟やフランスのルペン氏が率いる国民連合（国民戦線から党名を変更）などと連携してきた。他国の右派ポピュリストの勢いが削がれたり、欧州議会選後の右派ポピュリストによる会派結成が遠退けば、EUの将来に対する不安心理の後退につながろう。ただ、イタリアの同盟は各種世論調査で引き続き他党を大きくリードしており、フランスの国民連合は選挙戦最終版でマクロン大統領の共和国前進と支持率が逆転している。他国の右派ポピュリスト勢力にとって、どこまで逆風となるかは予断を許さない。

オーストリアの政変は今後のEU改革の主導権争いにも影響しそうだ。フランスのマクロン大統領が欧州議会選挙での共和国前進の勝利を追い風に、EU改革への政治的野心を抱いていることは広く知られている。クルツ首相はこうしたマクロン大統領の改革が理想主義的であるとし、自らもEU改革への意欲を隠さない。クルツ首相の国民党は欧州議会では現最大会派の欧州人民党（EPP）に所属する。EPPの次期欧州委員会委員長の筆頭候補は、ドイツの地域政党出身のウェーバー氏。同氏の筆頭候補出馬を強く後押ししたのがクルツ氏だったと言われている。クルツ氏はウェーバー氏との二人三脚でのEU改革を目指している。現在32歳のクルツ首相は、フランスのマクロン大統領とともに、EUの次代を担う若手リーダーの筆頭格だ。クルツ氏がEU改革を進めるうえでの弱点とみられていたのが、EUに懐疑的な政党との連立政権だった。今回のスキャンダルは、クルツ氏にとって連立解消の絶好の機会となった面もある。

秋の総選挙後のオーストリアの政権発足の行方は不透明だ。最近の世論調査では、国民党が30%前半で安定的にリードしており、20%後半の社会民主党、20%前半の自由党がこれを追う。今後、自由党の票の一部が国民党に流れたとしても、単独での政権発足は困難な情勢にある。今のところ、社会民主党との大連立に戻るか、リベラル政党との不安定な連立政権を発足する以外に政権発足の組み合わせは見当たらない。

以上